

3rd All Japan Sport Jujitsu World Championships

「これが柔術のあるべき姿」
「投打融合の打撃系がグラッププラーを圧倒！」

第3回日本スポーツ柔術選手権大会 兼世界スポーツ柔術選手権大会代表選考会
日本スポーツ柔術協会
7月2日 埼玉・朝霞市武道館柔道場

●65kg以下級・決勝
○倉金祐二 KO 館 智行

●各階級優勝者は(左から)90kg以下級・河村尚久(SAW)、75kg以下級・ジャスティン・ハーニング(U.S.A.)、65kg以下級・館智行(フリー)、90kg超級・プライアン・フィッツジェラルド(U.S.A.)。

●総合系大会荒らしの大内俊(バレストラ)も、75kg以下級の決勝で右ハイをもらって敗れた。

●連日の試合となる小西良典は得意の寝技で攻めるが、65kg以下級準決勝で館に敗れてしまった。

グレシーニ登場以来、柔術と言えば、グラウンドでの攻防が中心の戦いを想像するが、このスポーツ柔術は打撃と寝技をミックスした総合格闘技だ。グラウンドでの攻防は30秒まで、関節技や締めによるKOはもちろん、10秒間の抑込みでポイントを与えられる。もちろん蹴りやパンチによるKO、ポイント獲得も可能。ただし、ス波特ツと絡打っているだけに、顔面へのパンチやローキック、マウントパンチは禁止。柔術とテコンドーが融合した、と表現すればわかりやすいかもしれない。

今回は、スポーツ柔術の世界王者・倉金、また、プロクラス世界バンタム級王者の高橋など、異なるメンバークラスが参戦したが、これらのグラップラーを破ったのは、打撃系トレーニングを中心に積んだ選手たちだった。なんと全4階級のうち、2クラスの決勝戦が、打撃で決着。特に65kg以下級では、世界チャンプの倉金を忍法を駆使する館が細技からのハイキックでKOし、会場をわかせた。

「投打融合、これが日本古来の柔術のあるべき姿」とは、大会委員長を務めるSAW代表の麻生氏、各クラスの入賞者は、9月にイギリスで行われる世界大会に出場する。(舟橋)

The U.S. NAVY Sport Jujitsu Team appeared in the country's leading full contact martial arts magazine "Gongkakatougi"

Pablo Ramos
Founder/Head Coach
U.S. NAVY Sport Jujitsu Team
JULY 2000